

平成20年度第3回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2008年10月～12月)

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。佐渡島北の暖水域は、徐々に北上する。佐渡島南西及び男鹿半島北の暖水域は、消滅する。男鹿半島南の暖水域は、北上する。
- (2) 島根沖、山陰・若狭沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並み。佐渡島沖の冷水域は、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過(2008年6月～2008年8月)

- (1) 6月にウツリョウ島南東でみられた暖水域は、北東～東に移動した後、隠岐諸島北東の暖水域と合体。
6月に但馬沖でみられた暖水域は、東に移動した後、隠岐諸島北東の暖水域と合体。
6月に隠岐諸島北東及び佐渡島沖でみられた暖水域は、ほぼ停滞。
6月に男鹿半島南方でみられた暖水域は、北に移動。
6月に津軽半島沖でみられた暖水域は、消滅。
7月に佐渡島南西で暖水域が発生してほぼ停滞。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸(6月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
6月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”となり、島根沿岸、山形・秋田沿岸及び積丹半島南西では“かなり低め”の海域が分布。
7月：能登～渡島半島沖では“平年並み”～“やや高め”となり、佐渡～男鹿付近では“かなり高め”の海域が分布するが、それ以外では“平年並み”～“やや低め”の海域が広範囲に分布。
8月：能登半島以西、津軽半島西方及び北海道西方では、概ね“平年並み”～“やや高め”となり、隠岐周辺、但馬沖、稚内沖では“かなり高め”の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(4～6月平均)。

3. 現況(2008年9月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、佐渡島北、佐渡島南西、男鹿半島北、男鹿半島南に分布。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、規模は大きく接岸(水深100mにおいて10～15℃の水温分布が例年よりも広範囲に及ぶ)。佐渡島沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。入道埼沖の冷水域は、規模は大きく接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、能登～男鹿沿岸で“やや高め”の海域が分布するものの、全般的には“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(7～9月平均)。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

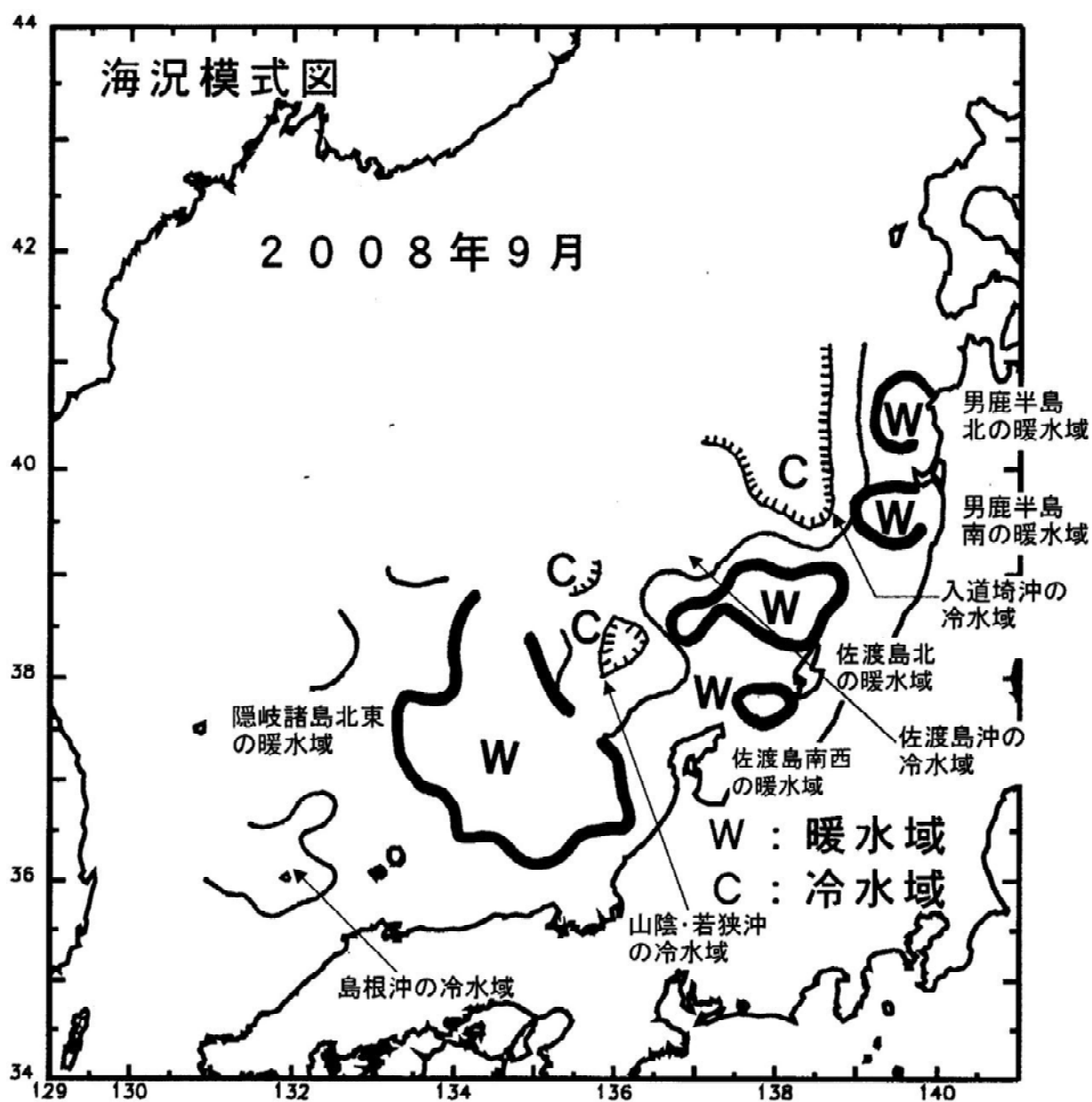
”やや高め”： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”： 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2008年9月の海況模式図

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術 センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所